

今回も自分が担当する枠では、公開個別フォローをやろうと思った。1回目が「対話せること」、2回目が「人には言いにくいこと」、3回目の今回は「家族」をテーマにした。

メンバーAさんの話では、Aさんが人間関係において“面倒くさい”と感じる理由が、今までで1番理解できた。幼少期に嫌だと感じたことはあまり記憶にないようだったので、蓋をしているようにも感じて、質問してみた。(思春期よりも、幼少期の方がダイレクトに感情で動いていたはずなんじゃないかと思った)“わかってほしかった”というキーワードは、私からも伝えてみたのだが、最後の陽子さんの言葉にAさんは心を揺さぶられていたので、陽子さんとの投げかけ方の違いを大きく感じた。

私は父の話をした。病気になっても弱音を吐かない父のことを尊敬していたが、陽子さんから、「Eちゃんは弱音を吐いちゃいけないと思ってるんだ？」と聞かれて、ずばりその通りだなと思った。私にとって父は強さの象徴でもあった。ただ、大学受験で選択肢を狭められた時、家計のことを考えれば仕方がないと当時の私は納得したけど、父が話し合いの場を設けてくれていたら、納得感はまた違ったものだったんだろうと思う。

決定事項として言い渡されるよりも、自分の弱みを見せることになっても今の状況を説明してくれていたら、私の意志を聞いてくれていたら、父という人間を理解できたり、父ともつといい関係が築けたと思う。

あと家族は頑張らない自分を受け入れてくれるが、それ以外の人には受け入れてもらえないと思っているという話も、自分が勝手にそう思っているというのは理解していたのだが、「Eちゃんの世界の話で、“ファンタジー”だ」と言われたのは、清々しくて、目の覚める思いだった(笑)

Bさんの回では、お子さんの話をコーチング練習会などほどんどしないことが気にかかっていたので、そのことについて聞いてみたのだが、Bさんが「未熟」という言葉を繰り返すのを聞いて、自分の父の話とリンクして感じる部分があった。親だから完璧でなければならないのか？未熟な姿を子供に見せるのは悪いことばかりなのか？私は、強くあろうとした父の姿を見て、自分自身もそれに囚われていることを今回自覚した。うちの父とBさんとでは程度が全く違うだろうが、今回改めてBさんの強い責任感を感じた時間でもあったので、未熟＝悪ではなく、未熟な部分は他の人に補ってもらおうと考えるきっかけになれば良いなと思った。

また、Bさんが失敗だと話すことについて、陽子さんは、「わかるよ」とその失敗を肯定していたことも、非常に印象的だった。誰にも起こり得る可能性があるし、Bさんだけに特別大きな過失があったとは思えないので、「そんなことないよ」と言ってしまいそうな気持ちを抑えながら、話を聞いていた。ただ、冷静に考えると、本人が失敗だと思っていたら、外野が何と言おうと、その気持ちは変わらないだろう。気持ちを肯定しないと、先に進めないのだと思った。

Cさんの家族関係は、今まで聞いた話から、多少特殊に感じていた部分もあったけど、早い段階で自ら親元を離れたこと

から、そこまで大きく影響は受けていないのかなと思っていた。ただ、先日のmtgでもあった、“人との距離が縮まるのが怖い”という言葉は、家族との関わりから来ているのかもしれないと思った。Cさん自身無自覚だった部分があると思うので、合宿が終わってから考えたことを、また聞かせてほしいと思う。

全体を通して思ったのは、“力不足”的一言に尽きる。陽子さんのフォローがなければ、それぞれ30分の時間内に、持ち帰れるものはみつけることはできなかった。最初の合宿の公開個別フォローでは、相手の話に共感してしまって、それ以上前に進めることができなかった。あれから1年半。あの時よりは、お互いの理解も進んで、できることも増えた。“私が言正在いいのかな”、“こう言ったら、こう思われるかな”という遠慮はなくなった。今回も踏み込んだ発言をした場面がそれにあったが、本質を突くものではなかった。角度が違った。それはもう、力不足以外の何ものでもない。「お互いのことをまだ知らないから」という言い訳は通用しないフェーズに入ったのだと思った。

(E.M 40代女性 埼玉県)